

【今更だけど、、 BioLegend 社が提供する二次抗体をご紹介します】

二次抗体を使用する実験系としては、フローサイトメトリー（Flow Cytometry, FC）はもちろん、免疫蛍光染色（Immunofluorescence, IF）や免疫組織染色（Immunohistochemistry, IHC）などが挙げられます。今回は実験系をさらに広げる BioLegend 社の二次抗体についてご紹介いたします。

●minimal x-reactivity シリーズ

Biolegend 社のポリクローナル抗体の一カテゴリーである minimal x-reactivity シリーズは、特定の免疫グロブリンに結合する二次抗体です。目的以外の免疫グロブリンとの交差反応を最小限に抑えるために、それぞれの製品に合わせ、ラット、ヒト、ウシ、ウマ、ウサギ、マウスの免疫グロブリンに対するなどの固相吸着処理が追加で施されています。

（製品一覧）

<https://www.biolegend.com/ja-jp/search-results?Keywords=minimal+x-reactivity>

●ストレプトアビジン Conjugates

ストレプトアビジンは、強力な非共有結合相互作用でビオチンに結合するタンパク質です。

ビオチン抗体などを検出するための二次標識法としてご利用いただけます。

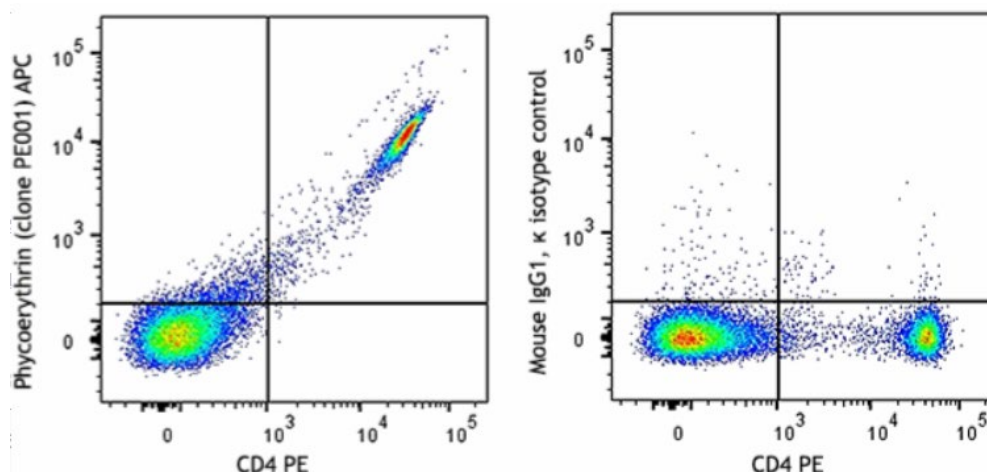
ご興味のある方は下記サイトもご確認ください。

（製品一覧など）

<https://www.biolegend.com/ja-jp/antibodies-reagents/secondaries>

●抗標識抗体

抗標識抗体は、FITC や PE など蛍光物質に結合する抗体です。標識細胞の分離、または蛍光標識が結合した一次抗体のシグナルを増幅するための二次抗体としても使用できます。



(製品例)

anti-Allophycocyanin (APC) Antibody

<https://www.biolegend.com/ja-jp/search-results?Clone=APC003>

anti-FITC Antibody

<https://www.biolegend.com/ja-jp/search-results?Clone=FIT-22>

anti-phycoerythrin (PE) Antibody

<https://www.biolegend.com/ja-jp/search-results?Keywords=PE001>

anti-GFP Antibody

<https://www.biolegend.com/ja-jp/search-results?Clone=FM264G>

皆様の実験に最適な製品をお選びください！

連載記事「今更聞けない、、、」シリーズ 記事まとめページは[こちら](#)

～顕微鏡を使って取得した画像をお持ちのお客様へご案内～

★締め切り間近★

第一回 顕微鏡で観る画像コンテスト

論文に利用しなかった失敗画像でも、Biolegend 社製品を使っていなくても、どんな実験系でも構いません！コメントを添えて是非ご応募ください。

期間：～2026 年 9 月 30 日（画像必着）

募集要項：

応募者が著作権を有するオリジナルの顕微鏡画像を提出してください。（細胞/組織など種類は問いません）

画像は PNG、JPG、JPEG、または GIF ファイルで、サイズは 10 MB 以下としてください。

コンテスト期間中は複数の画像をご応募いただけます。ただし、画像ごとに応募登録が必要となります。

受賞画像は、弊社オリジナルグッズ（根付、カレンダーなど）に採用させていただきます。

※受賞者へは応募画像を使った「2027 年カレンダー」をお送りする予定です。

詳細・応募方法：<https://www.digital-biology.co.jp/allianded/2026/07/02/11484/>

（お問い合わせ先）support@digital-biology.co.jp



オリジナルグッズ例